



さあ行こう、みんなで沖縄へ！

来週12月4日(月)から、いよいよ修学旅行が始まります。一番に望むことは、参加者全員が病気やけがをすることなく無事に帰って来られることです。そして、この修学旅行という貴重な機会を通じて、一人ひとりがそれぞれの学びを深められることを願っています。

11月13日(月)事前学習として、沖縄より講師の千住直広先生をお迎えし、沖縄の地理や文化、自然、食、歴史など多角的な視点で興味をそそられる講話を聴講できたことは記憶に新しいかと思います。そして、各クラスの前修学旅行委員が作成した「ちむどんどん新聞」(ちむどんどん:胸がドキドキする)もまた、趣向を凝らしたユニークな視点で沖縄の旬な情報を提供してくれました。作成に関わった委員の皆さん、ありがとうございました。沖縄に関する知識を事前に身につけたところで、いよいよ出発です。現地でしか味わえない沖縄の全てを、心と体全体で感じ取ってほしいと思います。

ここで、沖縄に伝わる有名な歌「ていんさぐの花」について紹介したいと思います。「ていんさぐ」とは「ホウセンカ」のことを指します。沖縄では古くからホウセンカの汁を爪に塗って染めると、悪霊除けの効果があると信じられてきました。この「ていんさぐの花」は1番から10番まであり、親や年長者の教えに従うことの重要性を説く教訓歌となっています。その一部の歌詞の意味を紹介したいと思います。



1. ホウセンカの花は 爪先を染める 親の教えは 心に染みる
2. 天の星々は 数えれば数え切れても 親の教えは 数え切れないものだ
3. 夜の海を往く船は 北極星が目印 私を生んだ親は 私の目印

この歌詞から、沖縄の人々の周囲を大切にすることが感じられると思います。皆さんも、この修学旅行に出かけるにあたり、まずは保護者さんに対して感謝の気持ちを持ってほしいと思います。そして、一緒に出かける仲間にも感謝し、仲間との絆を深める機会にしてほしいと願っています。

歌詞： <https://www.worldfolksong.com/songbook/japan/okinawa/tensagu.html> より引用

【12月行事予定】

A: A週 B: B週 行: 学校行事 を表します

日	曜	A/B	予 定
1	金	B	原付免許取得者集会
2	土		荷物搬入・修学旅行結団式(2年)、土曜講座(1年)
3	日		
4	月	行	修学旅行(2年)
5	火	行	修学旅行(2年)
6	水	行	修学旅行(2年)
7	木	行	修学旅行(2年)
8	金		12/2(土)の振替休日(2年)
9	土		
10	日		
11	月	B	
12	火	B	
13	水	B	
14	木	B	
15	金	B	

日	曜	A/B	予 定
16	土		土曜講座(1,2年共通)
17	日		
18	月	A	きすなの日、6校時LHRカット
19	火	A	
20	水	A	
21	木	A	
22	金	行	休業前集会、報告会、大掃除、音楽発表会
23	土		
24	日		
25	月		冬季休業開始(~1/5)、共通テストリハーサル(3年)
26	火		共通テストリハーサル(3年)
27	水		
28	木		
29	金		校内完全閉鎖(~1/3)
30	土		
31	日		

保護者のみなさまへ

修学旅行に向けて…今月21日には、修学旅行の詳細を記した「修学旅行のしおり」を生徒たちに配付し、27日の年次集会で、最終の事前指導を行いました。すでにお配りした「修学旅行のお知らせ」とも併せて、御家庭で再度御確認の上、最終準備を進めていただきたいと思います。特に、持ち物の準備や当日の送迎などについての御確認をお願いします。なお、修学旅行中の生徒の様子は、西高のホームページにアップします。有意義な旅となるよう、職員一同、最善を尽くしてまいります。

健康管理について…例年、寒さが増してきますと、体調を崩す生徒が多くなります。学校でも、手洗いやうがい、励行、マスクの着用など感染予防に努めますが、御家庭でもサポートをお願いいたします。

◎2年次職員からの寄稿を紹介します。2組担任 大塩 未帆 先生からです。

学生の頃、書写書道研究室に所属し、論文やアルバイトで忙しい日々だったが、そうはいつでも暇な時間もしっかり確保し、臨書や創作に明け暮れていた。ノートの端だけでなく、黒板にも字を書きまくって教授に迷惑をかけていた。その頃と比較すると、現在はほとんど作品を書く時間は取れていない。久しぶりに筆を出しても「さて、どうしたものか…」と思案して、50枚ほど書き散らかし、その中から選ぶときについついこうつぶやいてしまう。

「これでいいか。」

何気なく言ったこの一言。問題は「で」だ。「これがいい」と言った場合と「これでいい」と言った場合では、確実に「で」の方が消極的な態度が表れている。言葉の上ではほんの少しの違いだが、意味としては大きく違う。「これがいい」ではなく「これでいい」と言ってしまった自分。無意識のうちに惰性で作品を書いていたことに気づかされる。

振り返ってみると、日々の中には小さな「これでいいや」がたくさんある。当初はきちんとやろうと思っていたはずなのに、いつの間にか怠けや諦めを認めてしまう自分になっている。その時には何も起こらなくても、小さな「で」が積み重なると大きな失敗につながるおそれがある。

「これでいい」ではなく、胸を張って「これがいい」と言えるような高校生活になるように、自分を見つめ直そう。何気ないつぶやきからこんなことを考えた晩秋の夜だった。



◎続いて2組副担任 保坂 昂佑 先生からです。

『ギリギリでいつも生きてい…』

今年もあと一月で終わりですね。5時には暗くなり、甲府駅や竜王駅などでイルミネーションも点灯し始めましたね。「卒業まであと1年3か月なんだなあ」「入学してからもう1年8か月経ったのか」と思うと、時間が経つのは早いなど、しみじみしてしまいます。みなさん、これまでの学校生活を振り返ってみると、どんな学校生活を過ごしていますか？

先月、甲府南高校で行われた公立5校難関セミナーに参加してきました。簡単に話をまとめると、「3年生になったら本気を出す」では、遅いです。今のうちに学習した部分は解けるようにしよう、とのことでした。言葉ではわかっている、気がついていられるかもしれませんが、実践していくことが大切です。

進路指導係なので余計に、みんな自己実現に向けて順調かな大丈夫かな？と気になっています。受験は個人戦であり、団体戦でもあると思います。周りの友達と切磋琢磨し、競い合いながら取り組み、自己実現に向けて取り組んでもらいたいと思います。(青春も謳歌してほしい)

私はみんなのことをサポートしていくつもりです。八方塞がりになる前に、積極的に行動してほしいと思います。2年次の先生方や他年次の先生方、様々な先生たちと共に『チーム西高』で全力を尽くしていきましょう！

最後に「KAT-TUN」「ギリギリ」でyahooのリアルタイム検索をすると、「ギリギリ」をポジティブに捉える言葉が毎日出てきます(1件とかじゃなくて、10件以上)。「推し」を認知してくれるのはありがたいのですが、やはり「余裕をもって！」って思っちゃいます。何が起こるかわかりません。余裕をもって行動できるようにしていきましょう。